

## I. 令和2年度末事業概況

本年度は、昨年度策定した中長期経営計画の2年目として、事業進捗を加速していくべき年であるが、令和2年1月以降の新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大により、本会事業は多大な影響を被った。

令和2年4月および令和3年1月における2度にわたる緊急事態宣言の発出により、基本的な感染予防の実施や不要不急の外出の自粛、「三つの密」を避け、自己への感染を回避し、他人に感染させないよう徹底することが求められる中、体験交流事業や教育研修事業をはじめ、本会のほとんどの事業が中止・延期・規模縮小を余儀なくされた。

その後、緊急事態宣言は解除されたものの、感染が再拡大する中、政府の推奨する「新しい生活様式」に対応しながら、コロナ禍による停滞状況から脱却すべく、中長期経営計画の実現に向け、継続事業（公益事業）の着実な実施とともに、それらを補完する事業（収益事業）の拡大に向けて、新型コロナウイルスの感染防止に努めながら事業を展開した。

## II. 事業項目別実施概況

### 第1. 事業実施事項および内容

#### 〔継続事業＝公益目的事業〕

公益目的支出計画を踏まえた継続事業として、都市農村交流事業（体験交流事業、地域交流支援事業）・教育研修事業および広報・調査研究事業は、公益を目的として農山漁村地域の活性化に寄与するため、次の事業を実施した。

#### 1. 都市農村交流事業（継続1）

##### 〔1-1 体験交流事業〕

体験交流事業では、農家支援（作業）・交流により本物の食と農を理解する「援農ボランティア」、伝統的な食文化・安全安心な農産物について学ぶ「食育探訪」、自然・農林漁業体験、民俗芸能などの地

域の伝統文化に触れ興味関心を高める「田舎暮らし体験」など、様々な交流企画を通じ、新たな募集形態を模索しつつ、交流人口の増加に努めている。コロナ禍における第1四半期は企画を全てキャンセルしたが、同期間に本会が作成した「感染予防対策ガイドライン」に則って安全対策を徹底し、また地域・お客様にもご協力を仰ぎながら、第2四半期より募集と催行を再開し、その後も年度末まで緊急事態宣言等の状況を鑑みながら運営した。

### (1) 援農ボランティア活動の拡充『快汗！猫の手援農隊』

本企画は、過疎化・高齢化により担い手不足が深刻な日本の農山漁村を応援するため、「農作業の支援」をしていただくボランティアを募り、作物や土に触れ、農家との交流を通じて、食と農の理解を深めることを目的としている。

援農隊参加者の高年齢化に伴い、援農隊のあり方も次世代を見据えた変化が求められている中、若年層に活動の輪を広めるため、またコロナ禍でも参加しやすい日帰り企画を拡充し、今年度は、全国で受入れ地域数10箇所（企画数13本）及び、ボランティア総数138名の実績となった。

#### ■ 全国10箇所 企画数13 [参加者総数138名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	小布施ぶどう援農隊	7/3(金)～ 7/5(日)	長野県小布施町	15
2	みかん摘果隊	7/25(土)	神奈川県大井町	11
3	ブルーベリー収穫隊	8/29(土)	千葉県木更津市	16
4	紀の川柿袋かけ援農隊①	8/29(土)	和歌山県紀の川市	3
5	紀の川柿袋かけ援農隊②	8/30(日)	和歌山県紀の川市	2
6	えな栗援農隊	9/19(土)～ 9/21(月)	岐阜県恵那市	14
7	信州保平かぶ援農隊	10/24(水)～ 10/25(木)	長野県松本市	8

8	柑橘ダイダイ援農隊	11/28(土)	静岡県伊東市	8
9	温州みかん総採り収穫隊①	12/5(土)	神奈川県大井町	20
10	温州みかん総採り収穫隊②	12/11(金)	神奈川県大井町	19
11	温州みかん援農隊	12/8(火)	千葉県鴨川市	14
12	紀の川八朔収穫隊①	12/19(土)	和歌山県紀の川市	6
13	紀の川八朔収穫隊②	12/20(日)	和歌山県紀の川市	2

## (2) 食育交流企画の実施『田舎でいいね！食育探訪』

本企画は、農山漁村に古くから伝わる伝統的な食文化や農産物を体感し、味わい、子供から大人までの幅広い世代に対する「食と農」の理解促進を目的としている。緊急事態宣言を受けて中止となった企画をオンライン参加型に変更し、コロナ禍における新たな可能性を試行するなど、全国9箇所、12企画、参加者総数311名の実績となった。

### ■ 全国9箇所 企画数12 [参加者総数311名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	農と食は身近にあった！ 暑い夏を乗り切る！冷や汁と手打ちうどん体験	8/1(土)	埼玉県さいたま市	13
2	栄養満点!「オカワカメ」収穫体験と石切さん	9/4(金)	大阪府東大阪市	7
3	紀州伝統野菜『湯浅なす』収穫体験と金山寺味噌づくり体験	9/27(日)	和歌山県湯浅町	12
4	有機野菜で作る野菜のスイーツ～野菜と過ごす楽しい時間①	10/20(火)	東京都世田谷区	4
5	有機野菜で作る野菜のスイーツ～野菜と過ごす楽しい時間②	10/27(火)	東京都世田谷区	4
6	辻調理師専門学校校外学習①	11/5(木)	和歌山県紀の川市	97
7	辻調理師専門学校校外学習②	11/6(金)	和歌山県紀の川市	66
8	きょうと食いく先生の畑で野菜収穫	11/7(土)	京都府綾部市	16
9	里山を満喫 あきる野戸倉で過ごす晩秋の一日	11/23(月)	東京都あきる野市	21

10	江戸東京野菜を学ぶ～伝統野菜・都市農業に触れよう～	12/13(日)	東京都練馬区	34
11	なにわの伝統野菜と秋冬野菜収穫	11/28(土)	大阪府河南町	15
12	農と食は身近にあった！～冬のほっこり味噌づくり～【オンライン】	2/13(土)	埼玉県さいたま市	3

### (3) 移住・就農喚起に向けた交流企画の実施『田舎暮らし体験』

本企画は、農業漁業にまつわる様々な伝統文化や地域行事のある美しい日本の農山漁村を訪れ、そこに暮らす人々との交流を通じて、田舎暮らしへの愛着・興味を持つよう訴求し、訪問者には移住・就農のきっかけづくりを提案することを目的としている。都市部から遠方の地域を訪問する企画であることから、上期は実施を見合わせたが、下期はG o T o トラベルキャンペーンも活用しながら、比較的移動の制限が緩和された第3四半期に催行し、全国4箇所で行った4企画、参加者総数66名の実績となった。

#### ■ 全国4箇所 企画数4 [参加者総数66名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	北海道余市町の田舎暮らし	10/1(木)～ 10/4(日)	北海道余市町	12
2	ホスピタリティツーリズム専門学校校外学習	10/16(金)～ 10/18(日)	島根県奥出雲町	28
3	信州・奈川の田舎暮らし～冬を迎える山峡と上高地～	10/31(土)～ 11/1(日)	長野県松本市	11
4	愛媛県上島町の田舎暮らし	12/4(金)～ 12/6(日)	愛媛県上島町	15

### (4) 農業・農村ファン創りに向けた企画の実施『ふるさと体験交流』

都市生活者の農業・農村に対する理解や関心を高めるため、手軽に農村での交流ができる「体験型交流企画」を実施し、大人から子どもまで対象を広げ、農業・農村のファン創りを目指している。

コロナ禍によりバス旅行が制限される中、Go Toトラベルキャンペーンの活用や現地集合型の新たな企画を行った結果、全国14箇所、17企画、参加者総数370名の実績となった。

■ 全国14箇所 企画数17 [参加者総数370名]

No.	企画名称	実施日程	受入地域	人数
1	アスパラ&ごぼう収穫体験！ in 大田原	7/11(土)	栃木県大田原市	17
2	紀の川の桃&夏野菜収穫体験	7/11(土)	和歌山県紀の川市	21
3	鳥取県ブランド！二十世紀梨と ブルーベリー収穫体験	8/30(日)	鳥取県鳥取市	23
4	千葉の名産品を収穫しに行こう！ 落花生・さつまいも・いちじく①	9/13(日)	千葉県香取市	17
5	千葉の名産品を収穫しに行こう！ 落花生・さつまいも・いちじく②	9/14(月)	千葉県香取市	21
6	丹波栗ひろい体験	10/4(日)	京都府京丹波町	22
7	黒大豆枝豆収穫体験	10/17(土)	兵庫県西脇市	7
8	紀の川柿の収穫体験	10/18(日)	和歌山県紀の川市	22
9	あけぼの大豆(枝豆)ときゅうり 収穫・身延のゆばを味わう	10/18(日)	山梨県身延町	14
10	収穫の秋だ！畑に行こう！ブ ロッコリーとあたご梨狩り	10/24(土)	栃木県小山市	22
11	くろまるの郷でさつまいも収穫	11/6(金)	大阪府河内長野市	15
12	晩秋の風物詩！柿狩りと滑川町 伝統・武州ころ柿づくり	11/7(土)	埼玉県滑川町	21
13	秋の味覚！だいこん・キウイ収 穫と南足柄ぶらり旅	11/14(土)	神奈川県南足柄市	18
14	群馬の冬野菜を収穫しに行こう	12/10(木)	群馬県下仁田町	21
15	みらいスクール	3/21(日)	埼玉県さいたま市	39
16	「まりひめ」いちご狩り体験	3/30(火)	和歌山県紀の川市	20
17	神奈川県建設労連	3/30(火)	静岡県函南町	50

## (5) ふるさと倶楽部会員の拡大

都市農村交流事業の理解促進に向け、WEBサイトやメールマガジンによる情報提供や、JA東京アグリパークにて気軽に農を楽しむイベント「東京☆ココあぐり」を開催した。

これらの結果、ふるさと倶楽部会員5,145名（前年同比65名増）となりファン（賛同者）の拡大に繋がった。

## (6) 「新型コロナウイルス等 感染予防対策ガイドライン」作成

体験交流企画の参加者・関係者ならびに本会職員への感染を防止するため、基本的事項を整理したガイドラインを独自に作成し、本会ホームページおよび体験交流企画のチラシ書面に掲載するとともに、参加申込された方ならびに地域関係者に事前に周知した。

## (7) 産地直送サービス「おうちでつながる。」開始

コロナ禍により農産物の出荷や観光事業において影響を受けた体験交流企画の受入地域への支援と、外出自粛の中で体験交流ができない会員との繋りを維持・発展させるため、産地直送サービス「おうちでつながる。」を開始した。広報誌「ふれあい」や体験交流企画のチラシ書面に情報を掲載し、「ヒト」の交流に加え、「モノ」の交流を通じ、「ココロ」の交流まで含めた、多様な交流方法の一環として提供した。

No.	商品名称	受入地域
第1弾：令和2年5月		
1	野菜BOX、ジェラートセット	和歌山県紀の川市
2	バームクーヘン等	静岡県田方郡函南町
3	房州ビワ	千葉県南房総市
4	梅シロップキット等	群馬県安中市
5	甲斐の桑茶等	山梨県甲斐市
6	新玉ねぎ	群馬県前橋市

第2弾：令和2年6月		
7	りんごジュース	長野県中野市
8	アフロキャベツ餃子	千葉県銚子市
9	生にんにく	新潟県長岡市
10	サクランボ（佐藤錦）	山梨県甲斐市
第3弾：令和2年7月		
11	トムベジギフト	青森県十和田市
12	とうもろこし（恵味）	島根県津和野町
13	万願寺甘とう	京都府舞鶴市・綾部市・福知山市
14	ドレッシング（小谷の四季）	長野県小谷村
第4弾：令和2年秋 No15-18は広報誌ふれあい秋号に掲載、No19-22は西日本企画チラシに掲載		
15	市田柿	長野県高森町
16	梨（にっこり）	栃木県宇都宮市
17	京丹波黒枝豆	京都府京丹波町
18	早生みかん	愛媛八幡浜市
19	なにわ伝統野菜	大阪府河南町
20	京野菜	京都府綾部市
21	紀の川柿	和歌山県紀の川市
22	和歌山みかん・柿	和歌山県紀美野町
第5弾：令和2年冬 No23-24は広報誌ふれあい冬号に掲載、No25-28は企画申込者へ案内		
23	いちご（とちおとめ）	栃木県宇都宮市
24	三ヶ日みかん	静岡県浜松市
25	味噌キット	埼玉県さいたま市
26	軟化ウド等	栃木県大田原市
27	チューリップ	富山県高岡市
28	のらぼう菜等	東京都あきる野市

## 〔1－2 地域交流支援事業〕

体験交流企画と一体的な取り組みとして、農泊（農山漁村滞在型旅行）や将来回復が見込まれる訪日外国人の取込みによる地方創生に繋げることを目指し、（株）農協観光ならびに（一社）日本ファームステイ協会（JPCSA）と連携して、地域の受入体制整備に求められる専門的な支援を行った。この他、地域の課題解決に向けて地域に寄り添ったコンサルティングを実践し、地域団体の人材育成に重点を置いて持続可能な事業の確立に努めた。

### (1) 地域交流企画の提案と地域での展開

政府が推進する地方創生に呼応し、国や自治体が進める観光・交流を通じた地域振興事業、JAくらしの活動の一環として実践するJA交流事業および農泊の推進等の取り組みについて、本会は今年度の活動として、農泊に取り組む6地域・JA等に対し、（株）農協観光と連携して地域交流活動の推進を支援した。また、受入体制が整備された地域に対しては、本会の体験交流事業を活用して都市農村交流企画を実施した。

#### ① 新潟県上越市

（JAえちご上越管内における農泊の推進 2年目）

既存の観光需要に加え、訪日外国人を対象にした交流人口の拡大を目的に、発酵文化ゆかりの地として、酒蔵やワイナリーとの連携、発酵食をふんだんに用いた田舎料理の提供などを主としたプログラムを確立するため、本会は研修を通じた支援を行った。

実施組織：上越地域農泊推進協議会

#### ② 埼玉県川越市

（川越市内における農泊の推進 2年目）

川越観光の広域化と滞在時間の延長による農村地域の活性化および観光による地域経済効果の向上を図る事を目的に、上期には、稲刈り体験イベントの開催にあたってコロナ禍における受入体制整備を含むリスクマネジメント研修を、下期にはフィールドでのインストラクター養成研修を実施し、農業体験の受入れにあたり訴求対象

に応じた実践的な指導ができるような研修を行った。また、これらの研修を通して、農業体験を魅力のあるコンテンツとするとともに、スムーズで安全な運営ができるよう、農業体験の企画・運営者及びインストラクター従事者に向けたマニュアルの製作をした。

実施組織：蔵inガルテン川越グリーンツーリズム推進協議会

### ③ 島根県浜田市

(浜田市内における農泊の推進 2年目)

滞在交流に供する受入基盤における課題解決に向けて、地域全体での地域資源の磨き上げによる受入体制の強化及び農家民宿の増加に向けた取り組みが行われている。本会は、受入体制における安全基準を可視化できる受入安全管理マニュアル作成業務及び新たな体験プログラム開発業務を受託し、地域資源調査及び新たな体験プログラムを7プラン造成及びインバウンドモニターツアーを実施した。

実施組織：浜田市ツーリズム協議会

### ④ 島根県奥出雲町

(奥出雲町内における農泊の推進 2年目)

奥出雲町の課題である通過型観光・情報発信不足・体験プログラム不足を解決するために、農泊実施組織の体制整備、着地型商品の造成、情報発信・PRの強化に地域は取り組んでいる。本会は奥出雲町の認知度向上に向けて様々な世代を対象とした個人型モニターツアーを12組実施し検証した。また会員へのリスクマネジメント研修の実施、受入安全管理マニュアルを作成した。

実施組織：奥出雲町農泊推進協議会

### ⑤ 鳥取県因幡・兵庫県北但西部地域

(麒麟のまち観光局管内における農泊の推進 2年目)

麒麟のまち観光局では、ブランディングと情報発信の強化、観光資源のブラッシュアップ、食に関するコンテンツの開発、おもてなし文化の醸成を戦略的に展開している。本会は、新たな体験プログラムやコンテンツの意識調査・検証を行うために、親子・若者を対象としたモニターツアーを11月から1月にかけて7回実施し検証を

行った。

実施組織：一般社団法人麒麟のまち観光局

## ⑥ 静岡県浜松市

(浜松市における農泊の推進 2年目)

当地ならではの地域資源を活用して、訪日外国人旅客の受入れを含めた来訪者の拡大を図り、農林水産業の振興と地域の活性化をビジネスとして実施できる体制整備に取り組んでいる。本会は人材活用事業を通じて支援しており、今年度はコロナ禍の環境を踏まえ、法人ならびに個人向けのワーケーション、隣接エリア向けのマイクロツーリズムのプログラム開発に注力しタリフや提案書の作成支援を行った。

実施組織：浜松・浜名湖観光地域づくり協議会

## ⑦ 新潟県田上町

(田上町における農泊の推進 1年目)

当地域では、令和2年度10月に開業を予定している「道の駅たがみ」を中核拠点とした農村地域の活性化と観光による地域経済効果の向上を目的として協議会が設立された。協議会関係者への意識調査等から得られた情報を基に、地域の眠る宝を選定し、最終的には、当事業の重要な取り組みの一つである食と農を基軸とした体験プログラムの開発と組み合わせたストーリー性のある滞在型モデルプランに寄与することと地域実践者が観光コンテンツを開発する手法を身につけることを目的に実施した。

実施組織：田上町農・泊連携推進協議会

## (2) 農泊等の基本的な考え方に基づく地域づくりの実践

食料・農業・農村基本計画（令和2年3月閣議決定）にうたわれているように、農泊を持続可能な地域づくりの柱として、都市農村交流や将来のインバウンド需要を見越し、ビジネスとしてさらに強化することを目的とした本会主催の農泊経営人材研修が農林水産省の農山漁村振興交付金事業（農泊推進対策（広域ネットワーク推進事業））に採択された。

本研修は2コースを設定し、Aコースは農泊の経営強化に必要な基本的な知識や考え方を総合的に身につけることを目標として全国13カ所で、Bコースはファイナンスとマーケティングに特化して、東京・大阪の2か所で行った。

また、10月から開始した研修では、新型コロナウイルス感染拡大の影響から、研修会場に参加できない受講希望者向けに、動画共有プラットフォームによるオンライン配信を行うなどした結果、会場・オンライン含めて延べ239名の参加となった。

### (3) 観光立国推進施策と連動した全国推進への取り組み

政府が提唱する「明日の日本を支える観光ビジョン（平成28年3月30日）」に掲げる目標達成に向け、我が国の歴史や伝統に溢れる公的施設や文化財を観光資源として活用することが求められている中、観光庁は日本ならではの文化が体験できる宿泊施設として城郭や寺院の活用を促進するため、城郭・寺院等の事業者に対して、事業化に向けた専門家派遣によるサポート事業「令和2年度 城泊・寺泊による歴史的資源の活用事業（城泊・寺泊専門家派遣）」を公募し、本会がこの事務局を受託した。

上期は、専門家派遣に先立ち、城泊・寺泊への理解促進並びに事業周知を兼ねて、オンラインセミナー（生中継）を開催した。

#### 【城泊・寺泊オンラインセミナー実績】

開催日	事業	会場	場所	参加者
8月6日	城泊	名古屋城	愛知県	各会場ともに定員200名を超えた
8月7日	寺泊	仁和寺	京都府	

#### 【専門家派遣申込み・採択実績】

事業	申込み件数	採択件数	採択内訳
城泊・寺泊	25件	21件	城泊：7件 寺泊：14件

なお、採択された21件、ほぼ全件で事業計画書が策定された。

#### (4) 農福連携に関する調査

農林水産省の農山漁村振興交付金事業（農福連携対策のうち普及啓発等推進対策事業）の採択を受け、農福連携の農業経営体に及ぼす影響を調査することとなり、食料・農業・農村基本計画（令和2年3月閣議決定）において、「障がい者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障がい者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する」農福連携の一層の推進を図るため、「農福連携等推進ビジョン」（令和元年6月農福連携等推進会議決定）に基づき、農福連携が農業経営に及ぼす効果を測定し、農業経営体に対するメリットを提示することが求められ、当初10件程度の調査を行う予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響等からオンラインによる視察など、当初の調査予定の変更を重ねたものの、結果として参考案件を含め16件の調査を行い、調査報告書を作成した。

## 2. 教育研修事業（継続2）

農山漁村をはじめとする地域の観光の振興と促進を行い、国民が豊かな生活を送ることができる地域社会の創造に寄与することを目的とし、旅行業に係る各種研修会を地方中心に開催した。

### (1) 観光振興のための資格取得研修の実施

コロナ禍のため、6月上旬までは受講申込者があるにも関わらず研修会を開催できない状態であったが、6月中旬以降は本会作成「安心安全研修プラン」に則り、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底して研修会を再開し、本会初の試みとしてオンラインによる有料WEB研修を開催した。

#### ① 旅程管理研修

企画旅行の確実な実施に義務づけられた旅程管理主任者の資格を取得するために各地域登録旅行業者従業員等を対象に、旅行業法に基づく登録研修機関として、「旅程管理研修」（法定研修）を全国主要都市および地方都市において開催した。

## 「旅程管理研修」(法定研修)の開催結果

研修名	開催会場数	開催都市	受講者数
総合旅程管理研修	22	仙台(2回)・東京(7回)・長野(2回)・松本・新潟・福井・富山・大阪・高知・徳島・高松・松山・岡山・那覇	102名
国内旅程管理研修	27	仙台(3回)・福島・前橋・東京(8回)・長野(2回)・松本・新潟・名古屋・富山・福井・高知・徳島・高松・松山・岡山・松江・那覇	124名

### ② 総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座

「総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」は、国内・海外旅行業務に対応できる登録旅行者従業員や旅行業界をめざす者を対象に、国家資格である旅行業務取扱管理者の資格取得促進を目的としている。コロナ禍において、本会初の試みとしてWEB研修と集合研修を並行して開催した。

## 「総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」の開催結果

講座名	開催会場数	開催都市	受講者数
総合旅行業務取扱管理者国家試験対策講座	11	仙台・東京(7回：内4回WEB研修)・大阪(3回)	64(内24名WEB)

### ③ 国内旅行業務取扱管理者国家試験対策講座

「国内旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」は、国内旅行業務に対応できる登録旅行者従業員や旅行業界をめざす者を対象に、国家資格である旅行業務取扱管理者の資格取得促進を目的とし、コロナ禍においては、WEB研修と集合研修を並行して開催した。

## 「国内旅行業務取扱管理者国家試験対策講座」の開催結果

講座名	開催会場数	開催都市	受講者数
国内旅行業務 取扱管理者国家 試験対策講座	7	仙台・東京(5回：内2回 WEB研修)・大阪	49(内7 名WEB)

### 3. 広報・調査研究事業（継続3）

調査研究事業は、新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し『「第2回民俗芸能Now!」in神田明神』を開催した。また、山形県飯豊町中津川地区を拠点とする「貢献型観光の実効モデルづくり調査」に取り組んだ。

広報事業では、初の試みとして農山漁村地域を盛り上げる大学生らの活動を応援し、地域の活性化に繋げることを目的とした「第1回学生地域づくり・交流大賞」を開催したほか、～気軽に農を楽しもう～をテーマとした「東京☆ココめぐり」をJA東京アグリパークで実施した。さらに、オウンドメディア戦略の強化として、令和3年4月からの運用開始を目指し、ホームページの刷新に着手した。

#### (1) 農山漁村地域における民俗文化資源の保存・普及支援の実施

農山漁村地域の民俗文化資源の保存・普及を支援するため、地域の生活・文化と民俗芸能との関係を考え、地域で伝承されてきた民俗芸能を都市住民に紹介する「民俗芸能と農村生活を考える会」は、今年度、第32回として岡山県奈義町に伝わる「横仙歌舞伎」を招請し、令和3年2月20日（土）に大阪の国立文楽劇場で開催する予定だったが、大阪府を対象地域とした緊急事態宣言の発令に伴い、令和3年度に延期することとなった。

#### (2) 国内外を対象とした新たな民俗芸能の活用策の考究

農山漁村地域の活性化（地方創生）につながることを目的とした取り組み『「第2回民俗芸能Now!」in神田明神』を、令和2年11月28日に東京都千代田区の神田明神ホールで開催した。当日は、本公演用のコロナ感染予防ガイドラインに基づいた対策を徹底し、演目だ

けでなく民俗芸能の歴史等レクチャーの時間を設け来場者の理解促進に努めた。当初、計画していたインバウンド対策の取り組み（ナイトタイムエコノミーの推進）は、新型コロナウイルスの影響により見合わせた。

■演 目

第 一 部：岩手県「行山流舞川鹿子躍・東京鹿踊」合同組  
特別奉納公演「三人狂」

第 二 部：島根県「石見神楽東京社中」  
特別奉納公演「恵比寿」「大蛇」

■開催日時：令和2年11月28日（土）12：30開演

■会 場：東京都千代田区 『神田明神ホール』

■来場者数

第 一 部：120名

第 二 部：128名

(3) 訪日外国人による農山漁村地域の活性化に関する調査研究  
(貢献型観光制度に関わる調査研究) の実施

農山漁村地域の理解促進、観光促進による地域活性化を目的として、山形県飯豊町中津川地区をモデル拠点とし、英語・日本語のバイリンガルの外国人を「仮村民（仮称）」として地域に住まわせ、地域住民との協働により、外国人が地域に貢献しながら、将来に向けた地域の自立・自走の基盤づくりを進めるための実証調査である。今期は、事業開始から新型コロナの影響を受け、計画通り遂行出来なかった調査もあったが、令和2年7月～11月までの5ヶ月間、東京在住の外国人が中津川地区に住み込み、実証調査を実施した。

(4) 広報活動の充実と地域づくりに役立つ広報手段の検討・確立

- ① 全国各地の農山漁村地域では、学生等“若者”による地域を元気にする様々な活動が拡大している。このような社会的意義の高い活動を積極的に支援することを目的に、学生・専門学校生（個人・グループ問わず）を対象とする『第1回学生地域づくり・交流大

賞』を開催した。全国19の大学・短大から21事例の応募があり、その中から5組に、令和2年11月27日（金）・神田明神ホールで開催した最終審査会でプレゼンを実施頂き、厳正な審査の結果、5組全てに賞を授与した。

【表彰結果】

- 大 賞：特定非営利法人SET「Change Maker Study Program（略：CMSP）」
- 優 秀 賞：神戸大学 地域密着型サークル「にしき恋」
- 優 秀 賞：三重大学 「地域貢献サークル Meiku」
- 優 秀 賞：拓殖大学 国際学部 徳永ゼミナール
- 審査員特別賞：大正大学 地域創生学部4期生 越後班

- ② 本会の交流企画に参画する都市住民を対象とした「ふるさと倶楽部会員」はもとより、JAならびに系統関連団体や行政をはじめ各種団体・企業等へ広報誌「ふれあい」を年4回発行している。内容は、農山漁村地域の食を作る風景の美しさや魅力を生産者の想いととも写真付きで紹介する「食の一景」や、農山漁村と関わる学生等“若者”達の活動風景や想い等をインタビュー形式でお伝えする「ぼくらと農山漁村」ほか、自然・生活・文化・伝統手工芸品・民俗芸能および都市農村交流に係る活動等について、部署横断的な「広報担当者会議」での検討・編集により情報発信を行い、農山漁村地域の活性化促進に努めた。
- ③ JAグループの役職員をはじめ関係団体・組織を対象に、本会事業内容を紹介するため機関紙「つなぐ（上期版）」を、令和2年7月に発行し、中長期経営計画に基づく各事業の取り組みを紹介し理解を求めた。なお、下期版については新型コロナの影響による事業の実施状況を鑑み発行を中止した。
- ④ ホームページの刷新に向けては、令和3年3月までにサイト内容の確認やCMS操作講習会（説明会）等を実施した。
- ⑤ 中長期経営計画に掲げた「地域づくり」を支援するための新たな広報手段について「広報・マーケティングプロジェクト」メン

バーによる検討を行っており、その一環として、9月22日（火）～26日（土）、新宿の「JA東京アグリパーク」において、イベント『東京☆ココあぐり～気軽に農を楽しもう～』を開催した。「発酵食材 お味噌汁～お出汁の取り方～」・「江戸東京野菜ミニ講座」・「農福連携ミニトークショー」・「農業女子つ・な・ぐプロジェクトイベント」などの多彩な企画を実施した。

イベント名	実施日	開催場所	来場者数（全日計）
『東京☆ココあぐり～気軽に農を楽しもう～』	9月22日（火）～9月26日（土）	JA東京アグリパーク（新宿）	2,190名

## 〔収益事業〕

収益事業は、観光人材育成事業および日本農業検定事業であり、法人の持続的な運営の必要財源を安定確保するための事業として、事業収支の確保を目標として取り組んだ。

## 4. 観光人材育成事業（収益）

観光立国ならびに地方創生の動きをふまえ、観光・地域づくりに関する研修・講座を提供し、コロナ渦における観光人材の育成に取り組んだ。

### (1) 観光客受入を促進する研修の実施

#### ① 研修・講演メニューの改訂・拡充

宿泊・観光事業者や地域づくりに取り組む組織・行政を対象とした研修・講演メニューを経営上の観点から、「そなえる」「よびこむ」「つながる」「きりもりする」の4つに区分するとともに、研修を32企画に拡充した。

新規の研修コンテンツには、医師による医療現場から見たwithコロナ時代の感染症対策、江戸東京野菜コンシェルジュ協会による伝統野菜を活用した地域資源の磨き方等、外部講師による講演に加え、旅行業を巡る法制度の解説、食育による都市農村交流、援農ボランティアの受入れ方等、本会職員による講座も新たに開設した。

実施日	主催	研修会内容	受講者数
2月25日	長野県上田地域振興局	都市農村交流中間組織育成研修会 (オンライン開催)	16

## ② 宿泊施設での新人・従業員研修

国内旅行消費が停滞する中、休業中の農旅連協定旅館（滋賀県）に対して、観光客の受入に必要な基礎知識の習得やおもてなしサービスの品質向上等のために、従業員の人材育成研修会を6月29日に開催した。

## ③ J A T A 支援事業

一般社団法人日本旅行業協会（J A T A）からの要請により、試験委員として本会職員への委嘱を受け、令和2年12月に出講派遣支援を1回行った。

## ④ 旅行サービス手配業務取扱管理者研修

本会は「旅行サービス手配業」の資格者養成の研修機関として観光庁に登録されている。地域協議会等の従業員を対象に以下のとおり令和3年1月に開催した。

### 【「旅行サービス手配業務取扱管理者研修」（法定研修）の開催結果】

研修名	開催会場数	開催都市	受講者数
旅行サービス手配業務 取扱管理者研修	1	東京	3

## (2) 受入地域の体制整備に係る研修の開発と実施

### ① コロナ禍における研修等の開発と実施

農泊実践地域等が抱える様々な課題等の解決を図る目的のもと、本会主催をはじめ、Nツアーグループ・日本ファームステイ協会との連携による研修及び講師派遣を19回実施した。

そのなかでも、令和2年度は、コロナ禍においての農山漁村地域の受入拡大を目的として、受入事業者が提供するサービスの場面ごとに求められる具体的な感染予防と対応方法に関する研修を

開発し、7回実施した。

また、オンライン会議システムを活用した研修会も令和2年度より初めて実施し、初年度は12回実施した。

実施日	主催	研修会内容	研修形態	受講者数
6月29日	新潟県	感染症防止対策の正しい理解とコロナ対応に絞ったガイドラインとチェック項目の作成について	集合型	60
7月28日	津市白山町農泊推進協議会	コロナ禍における、体験メニューの商品化に向けた取組について	オンライン	8
8月5日	花巻農業協同組合	地域インストラクターの養成とリスクマネジメント、コロナ禍での受入について	オンライン	23
8月25日	津市白山町農泊推進協議会	農泊ビジネスにおいて、地域がやるべき課題の順番整理、協議会事務局の運営について	オンライン	11
8月28日	仙北市農山村体験推進協議会	教育旅行受入を前にコロナウイルスに対する適切な対応方法等の基本的知識について	集合型	23
9月14日	多摩観光推進協議会	観光客を誘致するための、効果的なSNS活用方法や発信の工夫について	オンライン	16
9月7日～8日	(一社)物部川DMO協議会	農泊の基本知識についての農泊勉強会	集合型	5
9月30日	津市白山町農泊推進協議会	農泊ビジネスにおける体制づくり・関係先との連携、農泊の多面的・多重的な考え方	集合型	10
10月2日～4日	(一社)物部川DMO協議会	コンテンツ開発等、基本知識についての農泊勉強会、	集合型	5

10月20日	四国グリーン・ツーリズム推進協議会	Withコロナ時代の農林漁業体験・農泊における安全管理研修	オンライン	20
11月26日	本会	医療現場からWithコロナ時代の感染症対策研修	オンライン	7
12月11日	本会	コロナ禍におけるリスクマネジメント研修	オンライン	10
1月29日	福島県田村市	日本ファームステイ協会事務局として、農泊地域における地域資源を磨き上げるための勉強会	オンライン	18
2月5日	津市白山町農泊推進協議会	農泊3年目地域において、自立自走するための事業計画	オンライン	10
2月18日	神奈川県	農協観光受託事業において、里地里山での交流体験活動実践者向け安全管理研修	オンライン	19
2月19日	仙北市農山村体験推進協議会	教育旅行受入を前にコロナウイルスに対する適切な対応方法等の基本的知識についての研修	集合型	23
3月4日	千葉県	農協観光受託事業において、農泊の推進、体制づくりとニーズ等の把握といった農泊実践概論	オンライン	99
3月11日	千葉県	コロナ禍における地域コンテンツの種類等の農泊実践概論	オンライン	92
3月18日	千葉県	販売・情報発信・プロモーションの必要性とインバウンドの受入といった農泊実践概論	オンライン	62

## ② (一社) 日本ファームステイ協会との連携

(一社) 日本ファームステイ協会事務局として、第5回、第6回社員総会・理事会・評議会(6月19日、11月17日)、賛助会員

報告会（7月31日）を開催するとともに、協会情報発信ツールであるJPCSA通信の発行を担当した。また、専門家派遣ワーキンググループ事務局として、次年度から協会初の収益事業となる研修等コンテンツ販売に向けた、農泊実践地域向け研修メニューと専門家派遣リストを作成した。

### ③ 提案型の地域づくり支援

多摩観光推進協議会が公募した「観光ルート開発モデル業務（1次産業等の体験等の日帰りモニターツアー）」企画提案において受託し事業を実施した。

また、株式会社大田原ツーリズムにおいて、地域づくり事業の将来的人材を育成することを目的として、那珂川町の有形文化財ホテル飯塚邸とその周辺地域を活かした『光のイベント』の開催支援を行った。

### (3) 海外コンサル業務への参画

本邦内の農山漁村の活性化の一助とすべく、海外の観光・農業関連プロジェクト等に参画し、海外における各種情報収集や支援ノウハウの習得に努めた。今年度は、コロナ禍に伴い2つのプロジェクトにおける国内業務を実施した。

#### ① キューバ共和国（基礎穀物のための農業普及システム強化プロジェクト）

キューバでは基礎穀物の増産に向けて農業普及システムの強化に取り組んでいる。本会は、同事業においてJICAとの業務実施契約を結んでいる共同企業体である日本工営株式会社の補強要員として本業務に従事した。

業務	教材作成/営農
期 間	令和2年6月～8月（国内稼働：計12日間） 令和2年12月～令和3年3月（国内稼働：計28日間）
主な業務	① 普及員便利ガイドの全体管理、編集 ② 日本の事例紹介用研修資料の作成

② セネガル共和国（食糧安全保障とレジリエンスのガバナンスに係る  
能力向上プロジェクト（第二段階））

セネガルでは食料安全保障とレジリエンス強化に向けて、食料安全保障諮問委員会事務局の下、各種活動が実施されている。本会は、キューバ同様、日本工営株式会社の補強要員として本業務に2名が従事した。

業務	モニタリング評価/統計分析
期 間	令和2年4月～令和3年（国内稼働：計120日間）
主な業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 食料安全緊急警報システム（SAP）関連業務の進捗モニタリングおよびSAP業務マニュアルの作成</li> <li>② 国家食料安全保障・レジリエンス強化プログラム（PNASAR）モニタリング評価関連業務の進捗モニタリングおよび同業務マニュアルの作成</li> <li>③ PNASARモニタリング評価改善のための国内事例紹介資料の作成</li> <li>④ 事業進捗報告書の作成 等</li> </ul>

## 5. 日本農業検定事業（収益）

本事業では、中長期経営計画の第2年度として、受検機会および受検者数を増やし、本会事業に還元することを目的に取り組んだ。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大により会議やイベントが全て中止となり、思うように推進が出来ない状況の中で、過去のデータを基にしたJAや関係機関、学校関係等への資料配布を中心に取り組んだ。

また、2020年4月に改訂版を発刊し、書店販売を継続し、受検者の拡大を図った。

### (1) 農業への理解促進と関心を高めるための農業検定の拡充

実施8回目を迎えた今年度の受検者数は、コロナ禍の中2,568名（前年対比104%）となった。

なお、JAグループにおいては、テキストを新入職員や若手職員の研修教材として活用する都道府県中央会や、農業の基礎知識習得を目的として、全職員に3級取得の奨励や全職員受検を実施するJAが新

規で増えている一方で、新型コロナウイルス感染拡大から受検を取り止めた団体もあり、58団体1,885名となり前年度を下回った。

学校については、部活動や授業の振り返り、就職活動など中学校から大学、専門学校、特別支援学校へ従来からの資料配布を行った。

2年前から実施している農作物の栽培記録や工夫などを競う「第3回日本農業検定栽培コンテスト」を中学生・特別支援学校生・高校生を対象に継続して実施した。

一般の受検者については、農業関連事業参入企業や体験農園・市民農園の利用者を中心に、栽培に必要な基礎的な知識を確認する機会として資料を配布した。

トウミョウ栽培キットは、中学校の授業の補助教材だけでなく、都市住民に農や食の関心を高めるため、小学生の親子を対象にした「トウミョウ栽培教室」を2会場で実施した。また、市民生協や地方自治体から食育の観察用教材として栽培キットの活用事例もあり、新しい販路拡大に繋がった。

## 第2. 経営基盤強化策

本会の経営基盤強化、および、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、本会職員の人材育成のための取り組み、財務の安定性確保を図る資産運用の充実、および情報システム機能の充実に取り組んだ。

### 1. 経営基盤の充実強化

#### (1) 人財育成のための取り組み

中長期経営計画の2年目、「交流で成功地域を創り出した実績豊富な団体」になるために行う人財育成の施策については、コロナ禍の事業規模の縮小、Nツアー等と連携したOFF-JT（集合研修等）の中止・延期等により、昨年同様に取り組むことは難しかったが、職員の企画提案力を強化することを目的に地域の人材育成に寄与する研修「こんな時だからできる研修・講演」の企画コンテストを実施し、販売に結び付いた優秀な企画を表彰した。

また、職員が主体的にプログラムの企画・運営をおこない、中長期経営計画を早期に効率よく実現するため、「農業女子」や「農福連

携」等をテーマにしたイベント「東京☆ココあぐり」を新宿・J A 東京アグリパークで開催した。

## (2) 資産運用の充実

公益目的支出計画の確実な実施と事業運営資金の安定的確保を図るため、早期償還となった債券1件について、本年度の資金運用管理方針に基づき、再投資を行った。また、9月にも債券2件が早期償還となったが、今般の金融情勢下において、同等の利率確保が困難であり、上期中の再投資を見送ったが、世界情勢等を勘案しながら再検討した結果、再投資と事業拡大に資するため資金化した。

## (3) 情報システム機能の充実

職員が貸与モバイルパソコンで、事務所のパソコンと同じ業務を行えるよう、コロナ禍における在宅勤務の業務環境を整備した。また、それを補完する役割として、クラウド・サーバの試験運用を開始し、在宅勤務や外勤時の業務を系統的にサポートする機能を整備した。

## (4) 新たなビジネスモデルの考究

中長期経営計画を早期に効率よく実現するため、新たなビジネスモデルを考究するため、部署をまたいだメンバーで構成する5つのプロジェクトを継続実施し、「新規事業開発」では農福連携、「インバウンド・多言語対応」では、コロナ後のインバウンド需要を見据えたノウハウの収集、「既存事業の仕組み・制度改善」では、農林水産省の「農業女子プロジェクト」との連携等を、今後に向けて継続することとした。

以 上